

# ヘルスメーター

## 子宮頸がん検診、受けていますか？

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)が子宮頸部の細胞に感染したのち、上皮内腫瘍という状態を経て発生します。HPVはいぼを作るウイルスですが、タイプによっては癌を発生させてしまいます。子宮頸がんの発症は30～40歳代に多く、60歳以降は進行がんが多いとされています。

上皮内腫瘍やごく早期の子宮頸がんは円錐切除術という体への影響が少ない手術を行います。少し進行したものは広汎子宮全摘出術という大掛かりな手術が必要になりますし、進行子宮頸がんは手術の適応ではなく抗がん剤や放射線の治療等が中心になります。

### 子宮頸がんを予防するには

子宮頸がん予防ワクチンは、HPVに感染する前に接種することによって上皮内腫瘍や子宮頸がんの発生を抑制することが科学的に証明されています。しかし、ワクチンを受けても感染が完全に防げるわけではありません。子宮頸がん検診は、子宮頸がんの早期診断に極めて重要です。

検査方法は医師が子宮頸部から細胞を採取して診断する細胞診が普及しています。近年、細胞診とHPVの検査を併用する方法や、HPV検査だけで頸がん検診として利用できるかが研究されています。

子宮頸がん検診は、自治体の検診のほか、職域検診等で受ける機会があります。どちらも行う診察・検査は同じです。婦人科受診や検診はためらわれる方が多いですが、子宮頸がんを発症していないことを定期的に確認することはとても重要です。

女性医師が対応する検診施設等もありますので、自分のからだを守ることを考えて、検診の案内が来たら封筒を開いて、まずは問い合わせをしてみましょう。